

## 基礎看護技術 学内実習における学習内容と指導方法

### 文献検討

大場みゆき

The Learning Process and Teaching Methods for the Basic Nursing Skills in Laboratory Practicum in Nursing Schools: An Examination of Documents.

OBA, Miyuki

#### 1. はじめに

昨年度の特別研究「基礎看護技術 学内実習の準備と片付けの現状と認識」において、筆者らは、基礎看護技術の主な技術項目に関して、衛生材料と薬品の使用状況を含めた準備と片付けの現状と教員の意識について全国調査を実施し、以下の点を明らかにした。（概要は、2001年12月の第21回看護科学学会にて示説発表を行なった。）

- 1) 「準備と片付け」への教員の意識と実際に行っている現状が一致していない。
- 2) 実習方法が統一されていない。
- 3) 実習で使用するディスポ製品・薬品の使用方法が統一されていない。

このように現状では、基礎看護技術を習得する学内実習が「実施」を主体として行なわれ、「準備と片付け（後始末と同語と考える）」の方法が統一されておらず、学習内容と技術習得にも影響していることが考えられる。また「準備と片付け」に対する必要性は、教員に認識されてはいるが、実習内容は施設ごとに異なっていた。この原因として、準備と片付けの教育的意味が明らかにされていないために個々の教員の認識が統一されず、それが方法の違いとして反映されたのではないかと推察された。

また、技術に関する文献は数多いが、準備と片付けに注目した資料は見られない。

そこで本研究は、看護領域以外まで含めた広い技術教育と国内外の学内実習のあり方という視点から文献を検索し、準備と片付けの教育的意味と学内実習での位置付けを明らかにすることを目的としている。具体的には、

- (1) 看護以外の領域での、学校教育を主とした技術教育において、「準備、片付け」がどのように位置付けられているかを、主に国内の資料から明らかにする。
- (2) 看護基礎教育における技術の学内実習に関する国内外の文献から、学習内容について整理し、「準備、片付け」の教育的意味について検討する。

という2点を目的としている。

## 2. 研究経過

文献検索のデータベースとしては、1) JOIS(JICST) 2) 医学中央雑誌 Web 版  
3) CINAHL の3つを主とし、NICHIGAI / Web service も参考とした。

1) JOIS(JICST)では、“科学技術” 領域において、キーワード“技術教育” “準備 OR 片付け OR 後始末” “実習 OR 演習” の3つを掛け合わせて、25件を抽出した。それらの研究領域は以下のようで、ほとんどが準備に関連するものであった。

表1 準備と片付けに関連した文献の研究領域

領域区分	工学	情報技術	看護	福祉	薬学	初等・中等教育	その他	合計
件数	13	3	4	1	1	1	2	25件

準備と一口に言っても内容はさまざまで、こちらが意図するものは少なかったが、工学系の文献の中に準備を学習と捉えて研究したものが見られた。それらの記述から、技術教育において学校教育現場では、準備について意識されることが少なかったことや指導面での違いが大きかった状況が推察された。

2) 医学中央雑誌 Web 版では、キーワード“看護技術” “教育” “学生” “演習” により、34件が抽出された。領域で最も多かったのは、基礎看護で22件であった。これらの内容を見ると、学生の学習過程(8件)と演習方法(7件)に関するものが多く、以下演習の評価(3件)、技術習得の実態等であった。

3) CINAHL では、キーワード“Nursing Skills” “Education” によって抽出された117件から、さらに Subject Headings “Learning Laboratories” によって絞込んだ24件の内、国内で入手可能な11件の内容について検討した。24件の中で“Student”を主眼としたものは11件であり、入手できた6件の中では、準備だけに着目した研究は見られなかった。しかし、学習理論を実習に統合させ、医療現場で必要とされる技術の間にプラスの転移が起こるような実習の再編という研究等が見られ、基礎看護技術の学内実習のあり方に関して示唆を得るところが多い。

現在、これらの文献検索から得られた資料を系統的に整理し、内容についてさらに検討している段階である。

(2003年3月20日 受理)